

いちご短日処理育苗による無加温ハウスでの秋春二期どり栽培

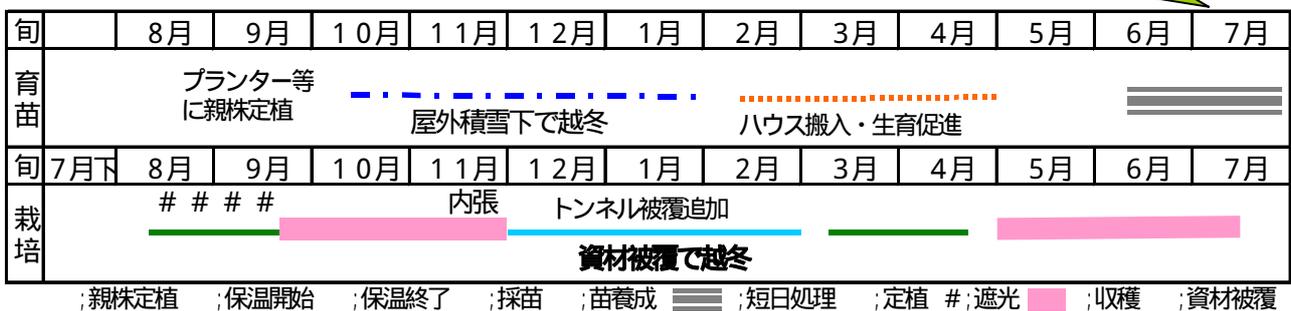
【1 成果の概要】

いちごの無加温ハウス栽培で、秋と春の2回収穫が可能になります。

- (1)品種は「北の輝」を利用し、短日処理育苗した苗を7月下旬～8月上旬に定植します。
- (2)9月下旬～11月の秋期と、翌春5月～7月上旬の春期の二期どりが可能です。

短日処理育苗は、日の長さを8時間に調節して育苗する方法です。処理する期間は「北の輝」で40～50日です。

【2 栽培の概要と栽培のポイント】

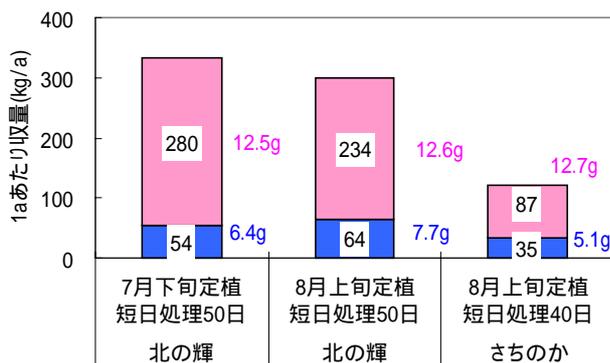


定植は花芽分化を確認してから行います。気温の高い年は処理日数が長くなります。

・秋は、定植してから約2ヶ月後に収穫が始まります。
 ・果実はやや小さめです。
 ・収量は、50～80kg/a程度です。

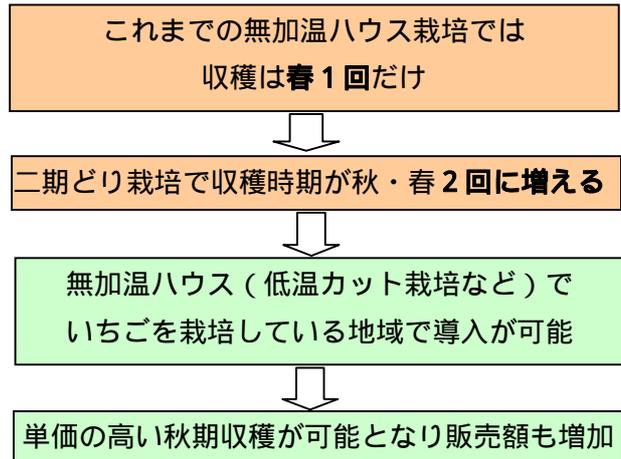
・春にも収穫ができます。
 ・果実は秋より大きめです。
 ・収量は230～280kg/a程度です。

【3 二期どり栽培での収量と1果重】



■ H16秋期 □ H17春期 秋期商品果平均1果重 春期商品果平均1果重

【4 こんな課題を解決し活用する場面】



【5 導入コスト】

- ・短日処理育苗の施設は、冷房装置は不要です。100%遮光の資材を使用しており、自作が可能です。
- ・短日処理育苗期間は、朝夕にトンネル開閉作業が必要となり、作業時間は1日10分程度です。
- ・暖房装置は不要ですが、冬期間の温度管理時に内張りカーテンとトンネル被覆資材が必要です。